

## 年 頭 の 辞

## 新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会  
会長 戸田 裕之

新春のお慶びを申し上げます。皆様、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。思い起こせば、昨年は地政学的な緊張が高まり、政治経済も世界的に不安定化しました。特に、素材や製品等への関税問題は、企業の皆様の研究・開発にも少しく影響したことでしょう。今年は、世界平和と政治経済の安定を通じ、学術・技術の発展に専心できる年であってほしいものです。

さて、会長就任から半年以上が経ちました。この場を借り、当会の動向を紹介させていただきます。まず会員数ですが、過去10年間でちょうど10%減少しています。学生の口頭・ポスター発表の活性化に合わせ、学生会員数は10年間で13%増えました。一方、企業会員は18%減で、もっとも多かった30年前と比較すれば40%減以上と、官学よりかなり高い減少率です。

研究活動で特筆すべきことは、研究部会の活性化です。これは、研究活動の持続的な活性化の鍵になると考えています。2年前に先行研究部会制度を作り、直ちには研究活動に入りにくい課題について、1年間、研究部会立ち上げの可否を検討できるようにしました。それを受けて2年間で9つの先行研究部会が立ち上がり、7つの研究部会新設へとつながりました。その効果もあり、本年度は、実に17もの研究部会が活動しています。その内訳は、学術対象の10部会に加え、生産技術対象が7部会あります。そもそも研究部会は広く参画会員を募って組織するもので、自分野の活性化や新分野への挑戦、また分野内の協働等に有効です。特に、若手会員の方がイニシアティブをとる部会の新設を歓迎します。このほか、新形式での参与会開催による素材企業－ユーザー企業－官学の連携推進の試みもなされており、その効果を期待しています。

コロナ期を除けば、講演大会と懇親会の参加者数は、10年ほど前からそれぞれ500名と300名を上回る状況が続いています。いずれも一般講演や市民フォーラムなどに加え、若手の会、女性会員の会、男女共同参画セッション、特別奨学生セッション、軽金属企業研究会、企業招待講演と盛りだくさんです。特に、ポスター発表は約80件と非常に多く、熱心に議論されています。惜しくも優秀ポスター発表賞を逃した学生諸君も、ぜひ再チャレンジいただきたい。嬉しいことには、研究部会の活性化が成果報告として目に見えるかたちで表れつつあります。例えば、今春の富山大会では、6つのテーマセッションのうち、半分が研究部会によって企画され、うち1件は生産技術関連です。講演大会の名物になりつつある男女共同参画セッションは、春秋とも博士課程進学をテーマとするもので、満員の会場で熱気にあふれた議論がなされ大盛況でした。

論文の掲載状況では、研究論文、速報論文に共同刊行のMaterials Transactions原著論文を合わせた論文数で45報と、一時の危機的な状況は抜け出しています。これには、3つの特集号、数年前に設定された速報論文およびMaterials Transactionsが貢献しています。生産技術関係も含め、各研究部会は少なくとも一回は特集号を企画いただくよう、切にお願いする次第です。また、高度化している翻訳ソフトの助けを借りるなどし、英文原著論文は、和訳版を軽金属に掲載いただきたい。このほか、論文数のさらなる増加を目指し、生産技術論文掲載の端緒を開くべく、編集委員会では技術論文の活用を企図しています。

渉外関係では、昨年タイセミナーを開催し、119名の受講者を集めました。本年秋には、ALMA (Asian Light Metals Association) フォーラムの開催を検討しており、アジア・太平洋地域との連携強化を図ります。また、国内的には関連学協会との連携強化を検討しています。具体的には、日本金属学会からの申し出を受け、講演大会共催等の可能性を検討するワーキンググループを大会運営委員会の下に設置しました。今後、会員諸氏のご意見も伺いながら検討してまいります。

会長就任時には、①学術中心の事業を生産技術へと拡張する、②若手会員の連携強化やレベルアップによる研究活性化を図る、③事業のスリム化と必要な事業への積極的な投資により事業の持続可能性を担保するという3つの柱を掲げました。生産技術関連のシンポジウム等の企画、生産技術の研究部会によるテーマセッションの企画や特集号刊行は、学会の活動範囲を学術のみから学術と技術をカバーするものへと拡大する途上では、重要なステップと思っています。最終的には、生産技術の各課題が一般セッションで議論され、生産技術論文が特集号以外でも恒常的に掲載される。これが100周年（2051年）でのあるべき理想像と考えています。①は、冒頭で紹介した企業個人会員の急減対策としても極めて有効です。②に関しては、今年で創設から四半世紀を迎える若手の会に期待するところ大です。また、女子中高生夏の学校に参画し、中等教育段階から人材育成や多様性促進に取り組んでいます。③では、会員サービスの観点で役割を終えた、ないしは効果が限定的な事業等を洗い出して改廃したり受益者負担化を進めるため、家計簿なる書類を作って会計の透明化を図り、役員間の議論に供しています。とにかく、ここ数年の赤字体質から脱却し、捻出した余剰資金をより効果的な既存ないし新規の会員サービスへと振り向けることで、会員たるメリットを極大化するよう心掛けてまいります。

本年も軽金属学の発展と会員サポートのさらなる充実を目指します。会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。